

【社会】 < 中学校 第2学年 >

1 結果のポイント

「地理的分野」について、統計資料等からデータを正しく読み取り、それらを基に適切に考える力をみる問題では正答率が80%を上回っている。

複数の資料から読み取ったことを基にして、中国の工業がどのように変化しているのか自分の考えを記述する問題や、面積の数値を基に、日本の国土における「山地と丘陵地」が占める割合を計算してグラフ化する問題では正答率が50%を下回っている。

「歴史的分野」について、百姓一揆や打ちこわしの発生件数のグラフから、江戸時代の農民の様子を読み取る問題では正答率が85%を上回っている。また、資料から明治政府の政策の内容について選択する問題では正答率が70%程度である。

江戸時代の文化や大日本帝国憲法の内容やしぐみについての理解をみる問題、歴史上の大きなできごとが起きた場所を地図上で適切に示す問題、江戸時代や日露戦争時の外国とのかかわりについて考えたり、自分の考えを記述したりする問題では正答率が50%を下回っている。

2 結果の分析

(1) 「知識・理解」の力をみる問題の例

< 問題 > **4**の6

4 6 はるかさんは、年表中の**f**には、中華民国が成立するまで中国を支配し、1894年に日本と戦争（A戦争）をした王朝が入ることに気がきました。年表中の**f**にあてはまる中国の王朝名（国名）を漢字で書きなさい。（年表は略）

< 結果 > 正答率 59.4%（正答...清）

< 分析 >

この設問は、「近代日本の歩みと深いかかわりのある中国の王朝名を正しく理解しているか」をみる問題である。無回答率が15%程度あり、昨年度の類似問題より正答率が約20ポイント低くなっている。その要因として、中国の王朝名を漢字で書くことを求めたことなどがあげられる。人物名や国名等、基本的な用語は、漢字を使って書くことができるように指導する必要がある。**2**の1(2)「太平洋側と日本海側の気候に違いを生み出している原因を正しく理解しているか」をみる問題の正答率は、昨年度の類似問題よりも向上しているものの60%を下回っている。冬の季節風の様子を示した図を基にした理解が不十分であったといえる。**2**の2(3)「川の働きによって作り出される地形について、地形図をもとに理解しているか」をみる問題の正答率は65%程度である。これらより、基礎的・基本的な内容については、地形図や分布図、写真・グラフ等、具体的な資料を通して理解を深めていく指導の充実を図る必要がある。

(2) 「資料活用の技能・表現」の力をみる問題の例

< 問題 > **1**の2 **2**の2(1)

1の2 太郎さんは、アメリカの農業について、表1から分かることをまとめました。**□**、**□**にあてはまることばの組み合わせとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選び、その符号を書きなさい。

日本と比べて、アメリカの農民一人あたりの農地面積は、はるかに**□**、農民一人あたりの機械の保有台数は**□**。

2000年	アメリカ	日本
農民一人あたりの農地面積	138.2ha	1.7ha
農民一人あたりの機械保有台数	1.84台	1.18台
1haあたりの米の収穫量	7040 kg/ha	6702 kg/ha

（選択肢は略）

2の2(1) よし子さんは、日本の国土における「山地と丘りょう地」が占める割合をグラフに表すことにしました。表1を見て、解答用紙のグラフを完成させなさい。

	面積
山地と丘りょう地	約27.5万km ²
その他の土地（台地、低地など）	約10.3万km ²
日本の国土	約37.8万km ²

<結果> ①の2 正答率 86.1% (正答...イ) ②の2(1) 正答率 25.1% (正答 略)

<分析>

①の2「アメリカの農業の特色について、一人あたりの農地面積や機械の保有台数から読み取ることができるか」をみる問題の正答率は、86.1%、①の3「グラフや文章から、オーストラリアの人々の様子について読み取り、簡潔にまとめることができるか」をみる問題の正答率が88.2%、③の2「グラフ資料の百姓一揆や打ちこわしの発生件数の変化から、江戸時代の農民の様子を読み取ることができるか」をみる問題の正答率が89.0%であった。グラフや図表を正しく読み取ることができる力が身に付いているといえる。

②の2(1)「面積の数値をもとに、日本の国土のうち『山地と丘陵地』が占める割合を計算し、グラフにあらわすことができるか」をみる問題の正答率は、25.1%であった。無回答率が27%程度であり、知識を基に資料を的確に作成し、理解を深めることができない生徒が多くいると考えられる。統計資料を基にグラフや地図を作成する方法を身に付け、自ら資料を作成することを通して地域的特色をとらえる視点や方法が身に付くようにする指導を充実させる必要がある。

(3)「思考・判断」の力をみる問題の例

<問題> ②の1(1) ③の1

②の1(1)

ア～エのグラフは、地図の4つの都市の気候と降水量を示しています。南西諸島の気候区分にあてはまるグラフを次のア～エの中から一つ選び、それを選んだ理由を気温と降水量の2点から簡潔に書きなさい。

(地図 は略)

ア	イ	ウ	エ
気温 14.3°C 年降水量 2476mm	気温 5.9°C 年降水量 1045mm	気温 21.5°C 年降水量 2814mm	気温 16.4°C 年降水量 1565mm

③の1 1グループでは、外国とのかかわりについて、A～Dのカードにまとめました。このカードを古い順に並べ、その符号を書きなさい。

A <u>朱印船貿易と日本町</u> 朱印船貿易にともない、多くの日本人が海外に移住し、東南アジア各地に日本町ができた。	B <u>ペリーの来航と開国</u> ペリーは、軍艦を率いて浦賀（神奈川県）に入港し、日本に開国を求めた。
C <u>島原・天草一揆と鎖国</u> 島原・天草一揆の後、幕府はポルトガル船の来航を禁止し、中国船とオランダ船のみ貿易を許した。	D <u>ロシアの接近と北方探検</u> ロシアの接近を警戒した幕府は、間宮林蔵らに蝦夷地や樺太を探検させた。

<結果> ②の1(1) 正答率 61.5% (正答 略)

③の1 正答率 21.2% (正答...「A C D B」)

<分析>

②の1(1)は、日本の気候の地域差を考え、グラフを選んだ理由を『気温』と『降水量』の2点から簡潔に記述する問題である。正答率は60%を上回り、昨年度の類似問題より10ポイント上昇した。②の2(2)の日本と世界の川を比較し、長さや傾きの違いから日本の川の特徴を考え記述する問題の正答率は80%程度であった。自分の考えを記述する力が伸びてきているといえる。その一方で、①の5の中国の工業の変化について考えを記述する問題、④の7の日露戦争時の外国とのかかわりについて考えを記述する問題の正答率は50%を下回っている。年表、地図やグラフ等複数の資料を活用して考察する力が不十分であるといえる。今後も、目的に応じて複数の資料を関連付けて考え、考えたことを整理して書く学習を充実させていく必要がある。

③の1は、「江戸時代の外国とのかかわりについて、時代の大きな流れのなかで考えることができるか」をみる問題である。誤答を分析すると、4つのカードが様々な順に並べられており、一番新しい年代のBのカードを1番または2番目に古い位置にした誤答も見られた。年表を活用して、歴史の大きな流れのなかで各時代の特色や変化、あるいは歴史を1つの面からとらえたときの移り変わりについて考えていく学習の充実を図る必要がある。

